



人間福祉学部 *School of Human Welfare Studies*

社会福祉学科	実践的な学びを通して未来の福祉を担い、優れたソーシャルワーカーを育成
社会起業学科	グローバルに、ローカルに、社会の課題を解決する社会起業家を育成
人間科学科	「こころ」と「身体」の両面から人々を支える人材を育成

人間福祉研究科 *Graduate School of Human Welfare Studies*

人間福祉専攻	「福祉」にもっとイノベティブ視点を。広く、深く、人と社会を探究する。
--------	------------------------------------



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

人間福祉学部・人間福祉研究科
School & Graduate School of Human Welfare Studies

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

Web https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/

**認知症ケア
専門士単位
3単位**

実践発表者には発表者単位として
1単位加算されます。

ワクワクするような実践をたくさんつくり出しましょう！

動き出しは
当事者から

職員がやめない
工夫とは？

認知症の方との
コミュニケーション
方法

お年寄りの
表情が
変わった！

第18回 気づきを築くユニットケア 全国実践研究フォーラム

2019年3月9日(土)・10日(日)

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

[〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-55]

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2001年に岡山県笠岡市で「全国実践者セミナー」としてスタートし、これまで全17回が開催され、毎回多数の実践現場から、日々の取り組みが発表されてきました。ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みの内容は施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至ったという取り組み発表もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、施設と地域などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催します。このセミナーでの発表を機に、「お年よりの表情が変わった」「職員が変わった」「ケアが変わった」など、数多くの感想が寄せられています。

一方、さまざまな課題に囲まれた現在のケアの現場環境は、ユニットケアを生んだ20年ほど前の状況と通じるところがあります。今、再び現場に立脚したユニットケアの源流を求めるものとして、大会事務局ではなく、現場の施設がテーマを設定し実践発表者と双方向で学び合い、高め合い、新たな現場発信を目指す部門を設けました。

全国の実践を発表者と参加者がともに学び、考え合い、さらに発信する場とすることを目的とし、関西学院大学で開催します。



主催：気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム実行委員会
共催：関西学院大学／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会
小規模多機能ホーム研究会／地域共生ケア研究会

1日目 3月9日(土)

実践発表タイムテーブル

11:50~12:00	開 会(各教室にて)
12:00~14:05	実践リレー①(5発表)
14:05~14:20	休 憩
14:20~16:25	実践リレー②(5発表)
16:25~16:40	休 憩
16:40~17:55	実践リレー③(3発表)

抄録・フェイスシートデータは、
本会ホームページから、参加者自身で事前にダウンロードして
持参いただく形式となります。
なお、当日資料には抄録・フェイスシートは掲載しませんが、
大会当日は当日資料とともにデータ収録したCD-Rを
お渡しいたします。
※ダウンロードページのURLは参加券発送時にお知らせいたします。

実践発表テーマ

第1部門

私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)
ユニットケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで失敗してしまったこと、悩んだことなどの体験談、
また取り組みから気づいたことや見えてきたことなどについて発表します。

第2部門

一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編)
ユニットケアで3大介護(食事・入浴・排泄の介護)はどのように変わるのか。
3大介護にまつわる苦労や工夫について、発表します。

第3部門

“食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし
食事づくりや場づくり、買い物や外食、栄養マネジメントや口腔ケアなど、
その人らしい豊かな暮らしを目指す取り組みを発表します。

第4部門

これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり
豊かに暮らすためには生活環境も欠かすことのできない要素の一つです。
これまでに暮らしてきた環境をできる限り変えないための地域とのつながりや施設の設えの工夫などを発表します。

第5部門

介護者家族と、地域との協働で実現する、その人らしい暮らし方
利用者に身近な存在である家族はかけがえのないたいせつな存在であり、またさまざまな難しさを抱えていることもあります。
ご本人が望まれるその人らしい暮らしとその人生を実現するための、家族との関係づくりや地域の方々との協働・連携の取り組みについて発表します。

第6部門

認知症の方とのコミュニケーションの工夫
認知症の方に対して尊敬と共感をもって関わるには？認知症の方の行動に対する理解や悩み、日常生活での見守りなど、
ケアに関する工夫や取り組みなどを発表します。

第7部門

ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと
施設は、日々暮らしをおくるだけではなく、人生の最期場となることもあります。
「施設での看取りのあり方」「医療機関との連携」「看取ることをとおして築かれた家族との絆」など、施設におけるターミナルケアを発表します。

第8部門

職員同士のチームケアや多職種との連携
一人ひとりの暮らしを支えるには、その方向性や情報を共有するチームの構築や職種を超えた連携が必要不可欠です。時には、施設を超えた協働や連携も必要となります。
ケアに関わる専門職同士が協力しながら、利用者の暮らしを、より豊かにする取り組みを発表します。

第9部門

施設の人材確保、職場の環境づくりについて
昨今、ケアの現場では人材不足が深刻な問題となっています。現場経験や知識が少ない初任者に、ユニットケアの考え方をどのように伝えていくか。
職員が魅力を感じ、働き続けてくれる職場とは？募集から待遇の改善、辞めさせない工夫など職場の環境づくりを発表します。

第10部門

スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと
よりよいケアを提供すること、現場のさまざまな事情でリーダーや管理者は思い悩みます。いまの職員のやる気とやりがいを引き出すにはどうしたらよいか。
スタッフの資質をどう伸ばしていくか、人材育成のための工夫や体制づくりについて発表します。

第11部門

現場発信！施設からの実践提案(NEW)
「企画テーマ応募報告と意見交換と交流」、「企画施設の報告による意見交換と交流」等、
当日のプログラムをお楽しみに！

最新の発表タイムテーブルや情報は大会ホームページから
ダウンロード可能です。[ユニットケア研究会](#) [検索](#)



- 定 員 800人(※定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 参加費 ■一般参加費 15,000円
■実践発表者 13,000円
※実践発表者は、1発表2人まで割引適用。
- 参加申込締切 2019年2月18日(月)

参加にあたっての留意点

1日目の実践発表は、各教室にて自由にお聞きいただくことになります。
つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆さまには、申込締切後、教室別の実践発表一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくことになります。
なお、2日目の分科会につきましては、希望される分科会を選び、○印をご記入ください。

2日目 3月10日(日) 分科会プログラム

A1

10:00 ~ 12:00 **【アンコール報告】 ～好評だった発表のあれから1年、その後の展開を報告します～**
★実践報告① ユニットリーダーの最初の仕事「便がでないのはなぜ」
特別養護老人ホーム 満寿園(京都府) 介護主任 大橋 淳 ユニットリーダー 井浪 利和
★実践報告② 認知症の方との関わりの中で「うそ」をつくこと
三豊市立西香川病院(香川県) 精神保健福祉士 朝田 加奈子
★実践報告③ 離職数14名→3名「好きな仕事はやめられない」
特別養護老人ホーム もみじ館(茨城県) 介護課班長 郡司 知子
★コーディネーター 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表 武田 和典

B1

10:00 ~ 12:00 **【現場実践支援講座1】「認知症ケアリーダーのための研修」**
認知症ケアや介護の仕事へのモチベーションを取り戻したい方必見！どうすればいつものケアの中で
実践できるようになるのかをパーソンセンタードケアを通してわかりやすくお伝えします。
★講 師 パーソンセンタードケア ワークショップ講師 寺田 真理子

C1

10:00 ~ 12:00 **【施設の地域貢献1】施設も地域の一員としての役割とは!?**
高齢化が進む地域における地元自治会と社会福祉法人による共同プロジェクト事例や子育て支援、
地域食堂、地域交流イベントなど、地域に根ざした新たな支え合いを考えます。
★パネラー 湘南学園(滋賀県大津市) 専務理事 塚本 秀一 NPO法人もちもちの木(広島県広島市) 理事長 竹中 庸子
★コーディネーター 関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井 博志

12:00~13:00 昼 食・休 憩

A2

13:00 ~ 15:00 **【現場実践支援講座2】好評連続企画!「動き出しは当事者から」**
認知症の方など(当事者)の意思の現れでもある「動き出し」から意図を察し、利用者の視点に立って
介護を行う方法を紹介します。
★講 師 日本医療大学 リハビリテーション学科 准教授 大堀 具視

B2

13:00 ~ 15:00 **【現場実践支援講座2】認知症になっても最期までその人らしく暮らせる老い支度**
自分も認知症になるかもしれないという前提で、どんな介護を受けたいか
「上手に老いるための自己点検ノート」を通して考えてみませんか。
★講 師 老い支度普及センター主宰 老い支度クリエーター 石黒 秀喜

C2

13:00 ~ 15:00 **【施設の地域貢献2】その人が望む地域での暮らし方を支えるには!?**
施設による見守りや住み替え支援、地域との関係性の構築事例や制度の有無に関わらず
住み慣れた地域での暮らしを支える事例などを通した地域貢献を考えます。
★パネラー 京都老人福祉協会(京都府京都市) 東高瀬川センター 施設長 橋川 光一郎
国見・千代田のより処 ひなたぼっこ(宮城県仙台市) チーム長 高橋 正佳
★コーディネーター 東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授 高橋 誠一

Let's make the life of facilities



申し込みに関するお問い合わせ

JTBビジネスネットワーク・JTB東北ECデスク
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル6F
JTBビジネスネットワーク気付 JTB東北ECデスク
「第18回気づきを築くユニットケア 全国実践研究フォーラム係」あて
電話:0120-989-960 FAX:0120-937-224
E-mail:tohoku-ec@jbn.jtb.jp (営業時間:土日祝除く平日 9:30~17:30)

内容に関するお問い合わせ

気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム実行委員会
事務局／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当:田村
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30
シンエイ木町ビル1階
TEL:022-727-8732 FAX:022-727-8737
E-Mail:unit@clc-japan.com
大会Web http://www.clc-japan.com/unit_care/